

2024 新競技規則変更に伴う質問についての回答（第一次）



2024（令和6）年7月15日

（公財）日本ハンドボール協会 競技・審判本部

※ 本回答は、6月14日までにお寄せいただいたご質問への回答となります。

※ 今回（第一次）以降はご質問を12月末日までの受付とし、状況に応じて日本協会ホームページへ掲載させていただきます。

Q1. 「プロボケーション」、「オーバーリアクション」、「シミュレーション」の定義・説明はどのようになりますか。また、段階罰(8:7)と即座に2分間(8:8)と区別された理由が知りたい。

<競技規則 8:7(d)、8:8(g)>

A. 「プロボケーション」、「オーバーリアクション」、「シミュレーション」の定義・説明

- ・「プロボケーション」 … 相手の違反を誘発させる行為
- ・「オーバーリアクション」 … 軽微な違反を大袈裟にする行為
違反は受けているが、その表現方法が大袈裟
☞ 8の7(d)により罰則を段階的に適用します
- ・「シミュレーション」 … 当該部位への身体接触がほんのわずか、あるいは全くない状況で、違反があったかのように見せかけ、相手に不当な罰則をレフェリーに適用させようとする。
☞ 8の8(g) 即座に2分間退場の判定をします

段階的罰則の適用(8:7)と即座に2分間退場の判定(8:8)と区別された理由

行為の質が違うため。（悪質性が違うため）

定義の説明で記載したように、「シミュレーション」の「身体接触はほんのわずか。あるいは全くない状況」で違反があったかのように見せかけ、相手に不当な罰則をレフェリーに適用させようとする行為の質と、

「プロボケーション」「オーバーリアクション」の、「攻撃側と防御側に接触がある」ものの、「レフェリーの判断を欺こうとする」「相手の違反の影響を誇張する」行為の質は違うためです。※当然のことながら、他の段階的罰則の適用と同様、「プロボケーション」「オーバーリアクション」について、警告の判定をしていなくても、即座に2分間退場の判定はできます。

例えば、「プロボケーション」「オーバーリアクション」について、後半に「口頭での注意」や「警告」の判定では、違反したプレーヤーまたはそのチームにとって何ら不利な状況になるわけではなく、勝利の手段となりかねません。ハンドボールへの良いイメージを守るためにも、後半においては前もって警告が判定されていなくても、退場とすべきです。

< お願いとお知らせ >

競技規則変更に関するご質問がある場合、以下の流れとし ※Ⅰ、国内においてハンドボールに携わる全て人々が情報を共有できるよう、個別による質問等への対応は、控えさせていただきます。

1. まずは自身が所属される審判長へ、ご質問をお伝えください。
2. 1. の内容を、ブロック協会審判長、各都道府県協会、各連盟審判長を通して、日本協会審判本部へ集約
※新旧対応表と競技規則書 2024 年版の 2 種類を、修正箇所と関連する前後の内容も含め、まずはご確認いただきますようよろしくお願いいたします。その上で、審判本部への直接の送付はご遠慮ください。
なお、今回の質問の集約および回答は、競技規則改正のみとさせていただきます。
3. 日本協会審判本部より回答 ※Ⅱ

なお集約された質問に対する回答については、以下の通り、日本協会ホームページへの掲載を予定しております。

第一次集約

- ・ 6月14日までに寄せいただいた質問
- ・ 第一次回答として、この内容を[日本協会ホームページ](#)にてして回答（本Q & A）

今後について

- ・ 質問は、12月末日まで受付
- ・ 第二次回答として、状況に応じて日本協会ホームページへ掲載

ご理解とご協力の程、何卒よろしくお願いいたします。

令和6年7月15日

(公財)日本ハンドボール協会 競技・審判本部

競技本部長 高野 修

審判本部長 福島亮一

※Ⅰ : ブロック協会審判長、各都道府県協会審判長、連盟審判長、ご対応をお願いします。

※Ⅱ : 日本協会ホームページへの掲載をもって、ご質問への回答とさせていただきます